令和８年３月25日

279号

北の療育



● **特集**　新しい年に想う～職員から一言～

● **報告**　海外（デンマーク・フィンランド）
視察研修に参加して／宮上憲之

社会福祉法人　北海道療育園

北の療育　279号

● 巻頭随想
・「力強く前進し飛躍する」一年に ―――――― 丸山　静男 ― 1

● 特集　新しい年に想う
・～職員からのメッセージ～ ―――――― 7

● 報告　海外（デンマーク・フィンランド）
視察研修に参加して ―――― 宮上　憲之 ―19

● グラビア
・今年も会いたい、あの笑顔！～各事業所から、みなさんへ届けます～ ―22







● 旭川通園だより
～今日も・明日も・未来も　利用者さんの笑顔のために～ ― 村越　すみ ― 26

● サンルーム・秋から冬の療育活動
・これからも日常に寄り添い、潤いある時間を感じていただけるよう支援していきたい
―――――――――――― 北海道療育園 ― 大村悠規子 ― 27
・みんなの笑顔が温かい！ ―――― 美幌療育病院 ― 福田あけみ ― 29

■ワークセンターぴぽろ
● 「新年にあたって」
ワークセンターぴぽろ・新町あすなろ保護者会　会長　猪﨑十紀枝 ― 31
● あすなろ通信
・Xmas・新年昼食会・花壇の整備　他 ―――― 内田　久勝 ― 32
● ぴぽろだより
・保健・給食関係職員研修会・屋上防水更新工事・二十歳のお祝い　他 ― 浦野　紘史 ― 33

CONTENTS 2026.3

● らせん
・言葉の芽生え：前言語期から初語への道
—オノマトペ・マザーリーズ・
三項関係が支えるコミュニケーションの土台— — 西村　由秋 — 35

● 令和７年度旭川市強度行動障がい支援者養成事業
自閉症スペクトラムトピックセミナーin旭川 — 吉田　秀吉 — 38

● つつじの里だより
・クリスマスとお正月を楽しみました！——— 加藤光記／小野健吾 — 39

● みち
・「新年の御挨拶」——— 齋藤　忠義 — 43
特定非営利活動法人とらいあんぐる事務局通信
・新年を迎えて ——— 長野　聡幸 — 45
美幌療育病院父母の会事務局通信
・地域連携推進会議について＝続報＝ ——— 植村　　規 — 47
つつじの里利用者と歩む家族の会事務局通信

● 令和７年の法人・各事業所　主な出来事
・法人／北海道療育園／美幌療育病院／ワークセンターぴぽろ／つつじの里 — 49

● ご厚意ありがとうございます
・寄付金一覧　・物品寄贈一覧　他 ——— 59
・職員異動一覧 ——— 59

インフォメーション

・謹賀新年 ——— 5
・画家のサカイトリノリ先生が来園！～療育園中村前廊下の壁、理容室に絵を描いていただきました～ — 18
・作業療法作品の紹介「今年はうま年！僕は武豊だよ！」第三療育課　佐藤　勉さん ——— 21
・清水基金・海外研修の報告会を開催～療育園の佐々木医師が欧米の医療、福祉施設で研修～／
衆議院選挙の不在者投票を実施～35名の利用者さんが選挙権を行使しました～ ——— 37
・ブックスタンド「書棚から歌を」—2021－2025—／田中　綾 著（しまふくろう新書）—— 41
・看護師さん募集！笑顔・いのちの輝き・かかわること。看護の原点がここにあります！—— 57
・春光台雪まつりに300人！地域交流ホームを会場に開催！ ——— 58

表紙Photo　「ひがしかわ氷まつり」晴天下の雪だるま／蒔田明嗣



「力強く前進し飛躍する」一年に

丸山静男

明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

今年は午年（うまどし）です。ご承知のように昔から馬は人間社会で重要なパートナーの一角にあって活躍し、「速い、力強い」などの象徴とされてきました。私達もそれらにあやかり、厳しい環境ではありますが「力強く前進し飛躍する」一年にしたいものと考えております。

昨年を振り返ってみますと、残念ながら災害のニュースが多かったように思われます。沖縄県悪石島の地震は連日長きにわたり続き、十二月八日には青森県東方沖を震源とする地震が発生し、北海道も道南を中心に被害が報じられたところでありました。

また近年顕著になった猛暑は本当に命にかかわるレベルとなり、私たちを苦しめ、北海道も遂にエアコンが必需品となってしまいました。また海水温の上昇は魚群の動態に大きく影響し、各地の漁業が深刻な影響を受けております。同様に線状降水帯発生による集中豪雨も例年のごとく多くの地域を襲い、深刻な災害をまねき、特に九月には北海道初となる線状降水災害が白糠町中心に記録され今後が心配されるところです。また全国各地に熊が出没し、それも従来考えられなかった住宅街、繁華街にまで現れ、多くの人命の損傷をまねくなどの悲劇も頻発しました。これらの事象は、地球環境の劣化がその深部では今日考えられている以上に進んでいる証左ではとも思われ、その保全に人類の叡智を集中する事を切に願っております。

とは云え、国外ではロシアによるウクライナ侵略は四年に及び、イスラエルのガザ攻撃もやむことなく、などはじめ世界の至る所で大小の戦争、紛争が頻発し、加えて年明けの四日には米軍によるベネズエラへの武力攻撃と大統領の拘束が報ぜられこれは明らかな主権侵害ではないか、などなど平和、安全、日々の安寧などがおよそ望みにくい状況が展開され、さて世界はどのような道をたどるのか懸念はつきません。

国内の状況はといいますと、新聞、テレビで派手に報ぜられる賃金アップや株価の上昇ではありますが、改善されない円安問題とも相俟って、実は、とんでもない物価の上昇にちっとも追いつかない「実質賃金減少」の事実が進行している等々われわれ庶民を苦しめる材料だけが山積されていくように感ぜられます。さらに、二十年前には気づき国を挙げて対策を始めるべきであった出生率の低下による人口減問題は、ここにきて回復不可能となり深刻な人手不足となって現出し、地方はおろか東京都内のバス路線まで大幅減便や廃止に陥るなどが伝えられています。物価高、人手不足対策はじめ政府の心のこもった力強い対応を望むばかりです。

さて、当法人は昨年、敬愛してやまなかった松田一郎先生をお見送りいたしました。享年九十二でいらっしゃいました。

先生は熊本大学教授、北海道医療大学学長などを歴任され、更には、日本人類遺伝学会理事長、日本マススクリーニング学会理事長、日本学術会議第七部会員、国際新生児スクリーニング学会執行委員会会員、ジョンズ・ポプキンズ大学客員教授等々として重責を果たされ、日本を代表する「世界のマツダ」としてご活躍なさったのでありました。

二〇〇九年以降、当法人理事、医療顧問として私たちに医療、福祉の何たるかをお教え頂いたところでありました。ご長命であられたとは申せ痛恨の極みであります。今は、ただただご冥福をお祈り申し上げるばかりでございます。

さて、昨年はノーベル賞受賞という明るいニュースもかけめぐりました。生理学・医学賞に坂口志文氏、化学賞に北川進氏が選考されました。両先生とも必ずしも順風満帆ばかりとは言い難い長い研究生活の後の栄誉と伺っております。既にそのお仕事は、人類の幸せに貢献しつつあると聞き、日本の研究力の高さを世界に示すも

のとして、私たち日本人に大きな誇りと希望を与えてくださいました。
昨今のわが国の研究支援施策が短期間での成果を求め過ぎると言われますが、物心両面にわたる長期の学術支援を願いたいものと思います。
昨年の法人事業で特筆すべきは、滝川通園事業所「たんぽぽの家」がめでたく開設二十五周年を迎えることができたということです。ご利用者様、ご家族の皆様、ご支援を頂いているご来賓の皆様と共に、十月十三日に記念式典を挙行いたしました。開設以来、特に北・中空知圏域の皆様はじめ多くの方々のご協力を頂き今日あることに思いをいたし、今後益々の充実を目指さねばと思っているところであります。
つつじの里も旧名「つつじ学園」から変更して十年になったお祝いを四月に内輪で行い、また本年は現在の立派な建物になって十年になる事より、笹戸千津子先生寄贈の彫刻のお披露目もかねて、お祝いの会の開催を企画しているところであります。
さて、私たちの最大の懸案事項と云えば北海道療育園の建て替え問題であります。この課題に対応するため昨年「法人会議」を新たに立ち上げ、鋭意検討を進めております。五月十二日の第一回から十二月二十七日の第八回まで都合八回開催しました。
昨今の物価上昇は、想像すらできなかった人手不足と相俟っての人件費や資材の高騰を招き、多くの企業が新・改築を断念するという報道が昨年来目立ってまいりました。特に北海道は、千歳市中心に展開されるラピダス関連事業の影響も受け、全国でも最もひどい状況とも言われています。つい最近、道南某町では役場新庁舎新築が入札できず白紙撤回、という衝撃的な報道もされました。
建て替えに当たっては、これら現在から将来の情勢を的確に把握、分析し次の世代により良い施設を渡さねばと強く念じております。この過程でご意見を伺うことがあろうかと思いますが皆さんのご協力を宜しくお願いする次第です。
当法人の理念の一つに「福祉施設は社会の共有財産」を基本とし健全で透明な施設運営。を目指すことが謳われております。
当然のことながら、新たな施設は、今までもそうではありましたが、全てのご利用者様と職員が幸せと安寧に

つつまれる場所でなければなりません。同時に地域社会の一員として十分職責を果たせる施設でなければなりません。これらの目標に向かい努力することは、即ち法人理念の遂行に連なるものと思っております。

旭川、美幌、つつじの里、滝川の問題はその単体だけのものではなく法人全体の問題と受け止め、全役職員一体となって今日の難局を乗り越えていきたいと念願しております。

本年が素晴らしい年だった、と振り返られるように、皆さんのご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

●まるやま・しずお
社会福祉法人北海道療育園・理事長・医師



旭橋と大雪山連峰